

第 50 回炉物理夏期セミナー：若手研究会実施報告

学生・若手小委員会担当幹事
竹本友樹（三菱重工）、竹田敏（大阪大学）

日時：2018年8月7日（火） 20：00～22：00

内容：若手研究者によるグループ議論、発表

今回は、若手研究者の交流を図ることを目的に、例年の研究内容の発表ではなく、グループワークによる議論、発表を行った。グループワークのテーマ及び発表された主な意見を以下に示す。

約 30 名の参加者を 3 つのグループに分けて、活発な議論、発表を行い、若手研究者の交流を深めることができた。また、セミナーに対する感想や改善案などのフィードバックも得られ、大変有意義な研究会であった。

○前半の部（若手のみ）20：00-21：00

- (1) 通常のセミナーと比較した場合の演習型セミナーのメリットについて
 - ・能動的に取り組むことで、技術をイメージしやすく、身に付きやすい
 - ・コードの実装を学ぶ貴重な経験ができた
- (2) 通常のセミナーと比較した場合の演習型セミナーのデメリットについて
 - ・演習があることで講義時間が短くなり、理解が追い付かなかった
- (3) セミナーを受講して難しかったこと
 - ・講義、演習の進行が速く、時間が足りなかった
 - ・コーディング経験、知識がなく付いていけなかった

また、演習型セミナーの改善策として、理論の解説を最初に行う、グループ演習の導入、事前演習を強化する、講師（チューター）を増やす等の意見が挙げられた。

○後半の部（若手+希望者）21：00-22：00

- (1) 炉物理分野において研究すること/働くことに対する意見、人材確保に必要なこと
 - ・原子力分野の中心部分である、炉物理という特異性がある、炉物理実験などで結果が見える仕事ができるといったやりがいがある
 - ・人材確保には、大学入学前に原子力のイメージと社会的責任を伝えることが重要
- (2) 炉物理分野に今後求められることは何か
 - ・技術者として、プラントに関する全般的な知識及び対外的に説明する能力が必要
 - ・自分たちが原子力の安全利用を引っ張っていくという気概
 - ・炉物理の重要性を対外的に伝えることが必要

以上